

絵を描く理由

蜜瀬かえで 著

いつもの放課後。

いつもの家庭科教室で。

いつものお料理研究会。

「——ねえ、玉置？」

「なあに？」

今日の課題は、ほうれんそうのおひたし。

茹でたほうれんそうを絞って、お出汁に浸し終えたわたしは、傍らでスケッチブックを広げる玉置にほんの軽い気持ちで訊ねてみた。

「わたしって、描いててそんなにもしろいのかな？」

「え？」

わたしの質問に玉置はキョトンとした顔を上げた。

「……おもしろいって？」

「だって、玉置って授業の課題以外は、ずっとわたしのことばかり描いてるでしょ？ 何かおもしろいところもあるのかなあって」

濡れた手をタオルで拭いながらわたしが言うと、

「別におもしろくて描いてる訳じゃないよ」

想定外の返しがきた。

「……え？」

ちよつと待って。

玉置って、わたしの絵を描きたくてこうやっていつも来てくれるんだよね？

「そだよ。だけど」

「だけど？」

「それは未佑がモデルとしておもしろいとか別にそういうんじゃないかって」

「じゃないなら、」

「じゃあ、どういうの？」

「うーっーん」

と、玉置は一回唸ってから。

「ああ」

と、手を打ち、言った。

「あたしが未佑のこと好きだから」

好きな人のことって、描きたくなるじゃん？
なんて。

そんな、すごく玉置らしいストレートな言葉は、少し照れくさくて。

わたしは思わず苦笑するしかなかったのです。

……というかさ、玉置。

言った後で真っ赤になるくらいだったら、言う前にちゃんと気づこうよ。
